

平成27年7月8日

平成27年度第4回定例記者会見のお知らせ

日時:平成27年7月14日(火)11:00~12:00

場所: 豊橋技術科学大学事務局3階 大会議室

<記者会見項目予定>

- ① 「AIST-TUT 先端センサ共同研究ラボラトリー」を設置 【電気・電子情報工学系 澤田和明教授】(別紙1参照)
- ② 地域防災交流 WEB サイト『つながる防災』の運用を開始します 【安全安心地域共創リサーチセンター 齊藤大樹教授】 (別紙2参照)
- ③ 男女共同参画推進の川柳受賞作品決定! & 理系女性研究者の活躍促進シンポジウム【男女共同参画推進室】(別紙3参照)
- ④ 第32回オープンキャンパス周知ポスターのデザイン決定!! 表彰式を執り行います 【総務課広報係】(別紙4参照)
- ⑤ 一顧問デザイナー髙橋正実氏デザインの NEW エコバッグデザイン披露ー 【総務課広報係】 (別紙5参照)
- ⑥ 歩行リハビリから院内業務まで楽しく安全にサポート 医療介護リハビリ支援ロボット Lucia (ルチア) の誕生 ロボットが歩行のパートナーに 【人間・ロボット共生リサーチセンター 三枝亮特任准教授】(別紙6参照)
- ⑦ 次回の定例記者会見の開催日程について (別紙7参照)

多くの方々のご出席をお待ちしております。

<本件連絡先> 総務課広報係 萩平・高柳・梅藤 TEL:0532-44-6506 FAX:0532-44-6509



平成27年7月8日

「AIST-TUT 先端センサ共同研究ラボラトリー」 を設置

豊橋技術科学大学では、文部科学省「研究大学強化促進事業」*1の採択を受けて、研究力強化推進のため、分野・組織の垣根を越えた異分野融合研究の場を創出するための環境整備を進めています。

このたび、高度な研究水準を有する国内外の研究機関等の研究者と本学の教員が協働し、特定の研究分野について、一定期間継続的に研究を行い、本学における研究の高度化及び多様化を図ることを目的とした先端共同研究ラボラトリーとして、**国立研究開発法人産業技術総合研究所(AIST)と「AIST-TUT 先端センサ共同研究ラボラトリー」を設置しました。**

【名称】

AIST-TUT 先端センサ共同研究ラボラトリー

【設置日】

平成27年7月1日

【研究内容・目的】

"センサ"は、私たちの身の回りの様々な情報、例えば温度や湿度をはじめ水質・ウィルスなど様々な情報を検出することで、サイバー・フィジカル融合社会#1の根幹をなすものとしてその重要性は益々高まっています。一見、センシング不可能と思われるような情報も含め、多様なニーズに対応した革新的なセンサの基礎研究から社会実装までの時間を極限まで短縮し、かつ低コストで研究・開発および製造可能な技術(ミニマル製造技術#2)の研究を、産業技術総合研究所と共同ですすめ、いわゆる"デスバレー(死の谷)"を経ることなく、センサ開発における学術研究と実用化の促進をはかります。

本ラボラトリーの活動は、センサのミニマル製造技術学理研究と装置の開発、その技 術による最先端センシングチップの研究・開発ならびにセンサ分野でのオープンイノベ ーションの場の構築を目指します。

【研究組織】

○産業技術総合研究所

原 史朗 ナノエレクトロニクス研究部門 ミニマルシステムグ・ループ 研究グ・ループ 長

○豊橋技術科学大学

澤田和明 電気・電子情報工学系 教授

高橋一浩 電気・電子情報工学系 講師

岩田達哉 電気・電子情報工学系 助教

【研究者経歴】

原 史朗(はら しろう) 産業技術総合研究所 ナノエレクトロニクス研究部門 ミニマルシステムグループ 研究グループ長

早稲田大学理工学部助手、理化学研究所基礎科学特別研究員を経て、1993 年、電子技術総合研究所入所。局所クリーン化リサーチシステムを開発。2001~2002 年財団法人 新機能素子研究開発協会 研究開発部統括部長兼企画室長。著書「局所クリーン化の世界」。2007 年に、投資額を1/1、000 にするリスク分散型半導体生産システム・ミニマルファブ構想を創出。現在、国立研究開発法人産業技術総合研究所ナノエレクトロニクス研究部門・ミニマルシステムグループ長。ミニマルファブ構想を実現するためのコンソーシアム・ファブシステム研究会代表。H24 年度より3年間、ミニマルファブ開発を国家プロジェクト化し、プロジェクトリーダーを務めた。

澤田和明(さわだ かずあき) 豊橋技術科学大学 電気・電子情報工学系 教授

1991 年豊橋技術科学大学大学院博士課程修了(工学博士)、1991 年静岡大学電子工学研究所助手、 1998 年 豊橋技術科学大学 講師、 2000 年 助教授、 2005 年ミュンヘン工科大学客員教授をへて 2007 年より現職. 現在 学長補佐(高専連携担当)ベンチャー・ビジネス・ラボラトリーセンター長、インキュベーション施設長を務める. LSI 技術とセンサ技術を融合したインテリジェントセンサの研究に従事し、ワンチップで多種多様なセンサ同時に情報を取得できるマルチモーダルセンサの研究創出を目指している. 2013 年「イオンイメージセンサシステムの研究」において文部科学大臣表彰科学技術賞(研究部門)受賞

#1 サイバー・フィジカル融合社会

実世界の現況や人と社会の活動を情報世界に映し出し、情報の力によって人類が直面する環境・エネルギー、医療・健康、食糧問題などの対策や新たな価値創成を行うことが期待される (東京大学曽根原研究室 HPより 引用)

#2 ミニマル製造技術

極小規模で半導体製造工場を形成し、少量の半導体チップを低コストかつ短期間で製造可能にすることを目的とした半導体製造技術。



(左から、澤田和明教授、大西隆学長)

本件に関する連絡先

担当:研究推進アドミニストレーションセンター(RAC) TEL:0532-44-1561

広報担当:総務課広報係 高柳・梅藤 TEL:0532-44-6506



平成27年7月8日

地域防災交流 WEB サイト 『つながる防災』 の運用を開始します

<研究経緯・研究組織・研究内容・今後の展開>

三河港は、世界でも有数の自動車輸出積み出し港であり、我が国の貿易を支える拠点の1つである一方、南海トラフ地震をはじめ、大型台風による高潮や豪雨など、自然災害のリスクの高い地域でもあります。こうしたことに対し、安全安心地域共創リサーチセンターでは、平成25年度より東三河地域の企業・自治体等において災害時に活躍できる防災の担い手の育成を目的とした取り組みの一環で、平成26年度に地方自治体の三河港湾担当部署や港湾地区の企業の防災活動団体等から構成される三河港湾防災・減災連絡会を発足し、実践的な防災担当者の養成と地域防災力の向上をテーマに、意見交換を実施してきました。そのなかで東三河港湾の企業では、それぞれに防災担当者を配置し防災対策に取り組んでいますが、取り組みを共有するしくみやツールやないため、企業間や企業団地間での防災への取り組みに格差が生じていることが明らかになりました。そこで、安全安心地域共創リサーチセンターでは、日頃の防災・減災の取り組みを紹介し、交流を深めることができるWebサイト「つながる防災~東三河防災アーカイブ~」を立ち上げました。

http://www.carm.tut.ac.jp/bousai_archives/

今後は、三河港湾の防災活動を促進する仕掛けのひとつとして、この Web サイトを積極的に運用していきたいと考えています。

本件に関する連絡先

担当:安全安心地域共創リサーチセンター 穂苅 TEL:0532-81-5157 広報担当:総務課広報係 高柳・梅藤 TEL:0532-44-6506



平成27年7月8日

男女共同参画推進の川柳受賞作品決定! & 理系女性研究者の活躍促進シンポジウム

<川柳募集>

本学における女性教員比率(助手を除く)は、4.9%で86の国立大学中84位という状況です。[(社)国立大学協会「国立大学における男女共同参画推進の実施に関する第11回追跡調査報告書(H27.1.15)」

こうした状況を本学の教職員・学生の皆さんに知っていただくとともに、今後の男女共同参画推進に理解と協力をいただくための意識啓発活動として、男女共同参画に関する川柳を学内で募集したところ、<u>52句</u>(内28句が学生)の応募がありました。

本学理事・副学長の大貝彰審査委員長のもと、選出された審査委員により、慎重に審査を行いました。 7月9日(木)に、本学男女共同参画推進の川柳の最優秀作品が決定し、**定例記者会見にて川柳受賞作品をご披露**いたします。

<オープンキャンパスでシンポジウム開催>

オープンキャンパスで同時開催企画として、**「理系女性研究者の活躍促進シンポジウム」**を開催します。(女性研究者研究活動支援事業(連携型)名古屋大学、名古屋市立大学、本学)

このシンポジウムでは、理系の女性研究者の採用・登用を促進させるべく意識啓発を目的とした講演会を 開催するとともに、本学女子学生による研究成果のポスター展示と説明を行い、連携機関の女性研究者や企 業関係者の方、これから理系女子を目指す女子中・高生・高専生・卒業生らとの交流を図ります。

■日時:平成27年8月22日(土)10:30~15:00

☆講演会:講義棟A1-101 13:15~14:15

講師:福地 真美氏 (経済産業省 経済産業政策局 経済社会政策室長)

タイトル:「成長戦略としての女性活躍の推進」

概要:活き活きとした日本の未来に向けて、女性の力が最大限発揮できる社会の実現が求められています。特に、専門性を活かせる理系女子の活躍の推進は、多くの企業が大きく注目して取組を始めています。女性の活躍推進の現状と今後の政府の取組等についてお話ししていただきます。

☆女子学生研究成果発表:講義棟A-207 10:30~15:00

本学女子学生による研究成果のポスター展示・交流

<男女共同参画推進に向けた活動>

今後は、以下のような男女共同参画推進の活動を積極的に行っていきます。

- ・川柳やロゴマークは、学内の意識向上のために広く周知し、活用します。
- ・男女共同参画推進のために、関連する情報を提供し、「見える化」を行います。
- 男女共同参画推進のための活動を積極的に行っていきます。
- ・女性研究者活動支援を積極的に行っていきます。
- ・理系女子(小・中・高校生)を増やすためのイベントを地域と協力して企画・開催します。

【男女共同参画推進室URL】

http://www.equal.tut.ac.jp/

本件に関する連絡先

担当者 男女共同参画推進室 上田正明 TEL:0532-44-6512 広報担当:総務課広報係 高柳・梅藤 TEL:0532-44-6506



·プンキャンパス〈同時開催企画〉



文部科学省科学技術人材育成費補助事業(平成26年度採択)

女性研究者研究活動支援事業(連携型)

あいちから日本へ、世界へ!



AICHI 女性研究者支援 コンソーシアム*

※ひまわりはコンソーシアムのシンボルマークです

シンボジウム

男女共同参画推進と 女性研究者活躍促進のために

女性研究者研究活動支援事業 (連携型) は、女性研究者の研究 力向上および上位職への積極登用 に向けた取組を、3大学の連携で 行います。(2014年11月~2017年3月)

このシンポジウムでは、理系の 女性研究者の採用・登用を促進さ せるべく意識啓発を目的とした講 演会を開催するとともに、本学女 子学生による研究成果のポスター 展示と説明を行い、連携機関の女 性研究者や企業関係者の方、これ から理系女子を目指す女子中・高 生・高専生・卒業生らとの交流を 図ります。

プログラム

講義棟A1-101

13:15~14:15

師 福地 真美氏 (経済産業省 経済産業政策局 経済社会政策室長)

タイトル 「成長戦略としての女性活躍の推進」

活き活きとした日本の未来に向けて、女性の力が最大限発揮できる社会の実 現が求められています。特に、専門性を活かせる理系女子の活躍の推進は、 多くの企業が大きく注目して取組を始めています。女性の活躍推進の現状と 今後の政府の取組等についてお話ししていただきます。

女子学生研究成果発表 講義棟A-207 10:30~15:00

本学女子学生による研究成果のポスター展示・交流

小惑星探査機「はやぶさ」スーパーバイザー西山和孝氏による講演会が同会場で14:30~15:30まで 開催されます。引き続きのご参加をお願いします。(豊橋技術科学大学同窓会企画による)

主催: 豊橋技術科学大学・名古屋大学・名古屋市立大学

理系女性研究者の活躍促進シンポジウム 豊橋技術科学大学

お申し込み用紙

豊橋技術科学大学 男女共同参画推進室



必要事項をご記入のうえご送信ください。申込締切:8月14日 なお、会場に余裕があれば当日参加も受付ますが、できるだけ事前にお申し込みください。

お名前	勤務先・役職
ふりがな	
TEL•FAX	E-mail
お名前	勤務先・役職
ふりがな	THE TABLE OF
3373.0	
TEL•FAX	E-mail
お名前	勤務先・役職
ふりがな	主がカフし、「文中成
13171176	
TEL•FAX	E-mail

■E-mailでのお申し込み 上記の内容を明記のうえdanjo-kyodo@office.tut.ac.jpまで



■お申し込みについて。

- ・電話によるお申し込みは受付しておりません。FAXまたはE-mailにてお願いいたします。
- ・お申し込みいただいた方に対し、本学より受理の通知はいたしませんので、当日直接会場 にお越しください。
- ・定員(200名)を超えた場合は通知いたします。

〈個人情報の取扱いについて〉

ご記入いただいた情報は、シンポジウムの運営以外の目的には利用しません。 お知らせいただいた情報を適切に管理し、お申込者様の承諾なく第三者に提供又は利用することはありません。

□■ 2015年8月22日(土) 10:30~15:00

豊橋技術科学大学 講演会: 講義棟A1-101 女子学生研究成果発表: 講義棟A-207

豊橋駅前(東口)2番乗り場から豊鉄バス豊橋技科大線 『技科大前行き』又は『りすぱ豊橋行』又は『福祉村行き』に乗車 『技科大前』で下車 所要時間25分

◆自家用車をご利用の方

東名高速 音羽蒲郡 I.C. 又は豊川 I.C. から約1時間

◆鉄道をご利用の方へ

東海道新幹線 名古屋駅から豊橋駅まで、約30分

名鉄名古屋駅から豊橋駅まで、名鉄特急で約50分 名古屋鉄道

中部国際空港から豊橋駅まで特急で約90分

http://www.equal.tut.ac.jp/index.html

(神宮前駅で乗換)

名古屋駅から豊橋駅まで、新快速で約50分

豊橋技術科学大学男女共同参画推進室

オープンキャンパス情報 http://www.tut.ac.jp/exam/opencampus/opencampus2015/



平成27年7月8日

第 32 回オープンキャンパス周知ポスターの デザイン決定!!表彰式を執り行います

本学では第32回オープンキャンパスを平成27年8月22日(土)に実施します。本学に興味のある中高校生・高専生はもちろん、地域住民の方などにも広く周知し、たくさんの方にご来場いただき、本学を知ってもらう機会にしたいと思っております。

そのための広報ツールとなる、オープンキャンパス周知ポスターのデザインを、学内に広く 募集し、デザインが決定しました。

ポスターの発表及び受賞者の表彰式、オープンキャンパスのお知らせを本記者会見にて行います。

<第32回オープンキャンパス>

ここ数年、右肩上がりで来場者が増えている本学のオープンキャンパスは昨年度、過去最高 の2630名を動員しました。

今年も数多くの方々にご満足いただけるよう、パワーアップしたイベントを多数用意しています。

【プログラム (一部)】

- ・最新の入試案内・模擬授業(高校生向け)
- ・小学生向け体験学習教室(家族向け)
- ・現役学生による何でも相談コーナー
- ・約90の研究室・研究所や施設を一挙公開
- ギカダイが誇るロボット実演



【オープンキャンパス特設サイト】

http://www.tut.ac.jp/exam/opencampus/opencampus2015/

本件に関する問い合わせ先

担当:総務課広報係 高柳・梅藤 TEL:0532-44-6506



平成27年7月8日

-顧問デザイナー髙橋正実氏デザインの NEW エコバッグデザイン披露ー

例年、大好評の豊橋技術科学大学オリジナルエコバッグを今年も**8月22日(土)開催の第3 2回オープンキャンパスにて先着1500名に無料配布**します。

<デザイナーエコバッグ(イメージ)>



バッグ表面に「TOYOHASHI UNIVERSITY OF TECHNOLOGY」の文字が赤で筆記体の様に入っており、A 4 サイズがすっぽりと収まる使い勝手のいい横型バッグです。

8月のオープンキャンパス開催時に配布解禁となります。是非ご来場下さい。

本件に関する問い合わせ先:

総務課広報係 高柳・梅藤 TEL 0532-44-6506 FAX:0532-44-6509



平成27年7月8日

歩行リハビリから院内業務まで楽しく安全にサポート 医療介護リハビリ支援ロボット Lucia (ルチア) の誕生 ロボットが歩行のパートナーに

医療・介護・リハビリの現場を支援するロボット、Lucia (ルチア) を開発しました。Lucia は、ロボットの強みである移動技術と先端的なセンシング技術を統合した人間協調型学習 ロボットです。主機能である歩行訓練支援では、療法士の指示を学習して患者の歩行を安全に誘導します。Lucia がともに歩くパートナーになって、歩く意欲を育てます。

<研究経緯>

豊橋技術科学大学人間・ロボット共生リサーチセンターでは、「人とロボットの共生」を理念とした人間機械協調技術の研究開発を推進しています。同センターは2013年に福島県立医科大学と協働して、回診支援ロボット Terapio を開発しました。本研究ではTerapio の基本機能に加えて、自律学習機能、映像音響機能、対人センシング機能などを導入した次世代型のロボット Lucia を開発しました。これらの新しい機能により、医師、看護師、療法士への院内業務の支援とともに、歩行などの運動機能に障害を持つ患者へのリハビリ支援を目指します。

<研究組織>

本研究は、豊橋技術科学大学人間・ロボット共生リサーチセンター 三枝亮特任准教授が研究統括し、同研究グループの重松圭祐氏他、大学院生らが参画して実施されました。臨床的機能の設計は医療法人さわらび会福祉村病院、実機加工組み立ては(株)ケーイーアールにご協力いただきました。開発にあたり人間・ロボット共生リサーチセンター(寺嶋ー彦センター長)に関わる教員学生スタッフより助言をいただきました。

<研究内容>

本研究では、医療・介護・リハビリの様々な場面で活躍可能な多機能ロボットの実現を目指して、Lucia の実機機構と基本システムを開発しました。

【Lucia のねらい】

- ・医師・看護師・療法士・患者と協調した歩行訓練支援
- ・診察器具・救命装置の運搬や病院・施設内の回診支援

【Lucia の要素技術】

- ・歩行経路の学習と自律移動による再現(パワーアシストで歩行経路を教えられる)
- ・歩行計測と状態推定(運動を計測して歩行軌跡、歩幅、歩速、姿勢などを推定する)

- ・映像音響による歩行の誘導(床面への投影や音を用いて患者の運動認知を助ける)
- ・表情生成による癒やし(笑顔や困り顔で患者から意欲を引き出す)
- ・医療器具の移動搬送 (AED などの救命器具や回診用の診察器具を運ぶ)

【Lucia を用いた支援シナリオの例】

- ・Lucia と平行棒を用いたパーキンソン病患者の歩行訓練支援 (踏み出し位置の提示による「すくみ足」への適応)
- ・Lucia と杖を用いた片麻痺患者の歩行訓練支援 (全身姿勢の検知による「非対称歩行」への適応)

【Lucia という名前の由来】

ロボットが光源(投影機能)をもつことから、イタリア語の luce(光)を由来とする女性名 Lucia より命名されました。Terapio と Lucia は兄妹のロボットです。

<今後の展開>

今後は、病院施設での臨床実験を実施して安全性・信頼性・操作性の改善を図り、2年 後の事業化を目指して研究開発を推進します。今後、以下の機能も導入する予定です。

- ・認知症患者への映像音響による働きかけや癒やし
- ・介護施設入居者の安否や所在を確認する見守り支援



7月14日11時からの定例記者会見(事務局3階大会議室)では、研究内容の説明とともに、 Luciaの実機実演も行います。また、本研究統括である本学人間・ロボット共生リサーチ センター三枝亮特任准教授への個別取材も受け付けますので、ご希望の場合は下記担当ま でご連絡ください。

本件に関する連絡先

広報担当:総務課広報係 高柳・梅藤 TEL:0532-44-6506



平成27年度 定例記者会見日程予定

第1回 平成27年 4月14日 (火) 11:00~

第2回 平成27年 5月12日 (火) 11:00~

第3回 平成27年 6月23日(火)11:00~

第4回 平成27年 7月14日 (火) 11:00~

第5回 平成27年 9月 9日(水)11:00~

第6回 平成27年10月20日(火)11:00~

第7回 平成27年11月17日(火)11:00~

第8回 平成27年12月15日(火)11:00~

第9回 平成28年 1月19日 (火) 11:00~

第10回 平成28年 2月16日(火)11:00~

場所はすべて本学大会議室(事務局3階)を予定しています。場所、 日程は現時点での予定であり、都合によって変更の場合があります。定 例以外に臨時で記者会見を行う場合があります。

以上